育成会たより
第12号
2016 MARCH

てをつなぐ

題字：税所まり子さん

編集・発行　社会福祉法人 鹿児島市手をつなぐ育成会
〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯2−1−1 鹿児島市知的障害者福祉センター2F（ふれあい館）
Tel 099−264−8725 Fax 099−296−8180 ホームページアドレス http://tewotsunagu.org/
希望の園／育成センターコスモス／第二コスモス／とまと／ふもと／
相談支援事業所 希望の園／相談支援事業所 育成センターコスモス／相談支援事業所 第二コスモス／
さくらんぼホーム／すみれホーム／さくらホーム／きぼう学舎／わくわくコスモス

平成28年　鹿児島市手をつなぐ育成会　成人式（ふれあい館）

地域密着型

希望の園 管理者　宮内英光

日曜日のホーム。近所にお住まいの民生委員のAさんと長寿会のBさんが、「茶飲みに来たよー。」と玄関先に立たれ、すぐに「茶のみ話」の部屋へ。

声を聞きつけた利用者の皆さんが、「茶の間」に次々に顔を出す。そこでは、日中利用の施設で先日開催された「交流文化祭」の互いの出し物の話に花が咲く。「上手だったね。」「Aさんたちの踊りも良かったです。」「来年はもっと練習しとくからね。」そして「そうそう、今年の餅つきはいつ?」と次の行事の話になる。また、「あれ?今日はCさんは?」「今、支援員さんと○○に買い物に行っています。」など、利用者様の動静に話が及ぶ。……。平成三十X年開所の育成会グループホームYでの話。地域の方々に見守られるホームでの日々。今年の初夢。

鳴り響く非常ベル。放課後等デイの子どもたちが指導員らと共に駐車場に避難する。そこに同じビルのお隣さんの理容室の御主人や温泉の御主人らが駆けつけてくださる。避難訓練のひとこま。

利用者の皆様が、地域の方々に守られ、生きるための知識や技術を学ぶことは大切です。逆に、私たちが利用者の皆様方からこそ、学んでいることがあります。大げさな言い方かもしれませんが、自らの人間観であり、生きる意味であり、幸福観などです。前述の地域の皆様もそうではないかと思います。

「地域資源を生かす」とか「社会福祉法人は地域貢献すべし」と言われます。利用者様自身が地域資源であり、利用者様の地域密着の仕掛けをすることも地域貢献の一つではないかと思える最近です。

祝新成人

成人の貴方へ、そして私たち自身へ

事務局　窪　高宏

梅の花の香る季節になりました。一月の成人式ではスタッフとして関わりを持ちました。式は涙が出る位にうれしかったです。皆様の晴れ舞台に接しまして、心からのお祝いを申し上げます。成人おめでとう。そして育成会の家族や職員の皆さん、ご協力ありがとうございました。本当に皆さんに支えられた成人式だったと思います。

私は、貴方へ成人式でのYさんの誓いの言葉をそのまま送りたいです。大切なことは夢と家族への感謝とそして人を助けられる努力をすること、です。これから貴方が関わっていかれる社会では私たちも努力し、もっと人間的に成長していきます。成長できればもっと自由な心を持てるし、もっと人にやさしくできるからです。

貴方は私たちの仲間です。どうかこれからの人生、自分と他人を比べることなく、自分を愛してください。障がいは個性だし社会で頑張っている先輩も多くおられます。貴方のそばに貴方を見守ってくれる仲間がいることを信じてください。みんなで一緒に共生社会の考えを実現していきましょう。私たちはいつも貴方と一緒にいます。共に歩みましょう。

子供の成長

育成センターコスモス　前田　賢士朗

赤ちゃんの時から、体が弱くて、入院することがよくありました。

小学部、中学部、高等部まで進み、現在は育成センターコスモスで、軽作業をしたり、園の皆様と楽しく一日を送っている事がとてもうれしいです。

そして、病弱な息子でしたが、今では、大きく成長してくれています。これからも、前向きに、生きてほしいと願っています。

優しい「こんな」息子が大好きです。（母）

新成人を迎えて

わくわくコスモス　山元　健太郎

現在、育成会の放課後等デイサービスで働いて二年目になります。始めは仕事の流れが分からなかったけど、今は、少しスムーズにできていると思います。

二十歳になり成人を迎えて、大人の自覚をしっかりと持って、これからも頑張っていきたいと思います。

成人式を迎えて

希望の園　園田　卓矢

成人式、スーツ姿の息子は、いつもの様にマイペース。でも皆さんから送られるお祝いの言葉やプレゼントに、笑みがこぼれます。たくさんの笑顔に包まれて、この日を迎えられたことに感謝いたします。これからも明るく元気に、出会えた方々との絆を大切に過ごしていってほしいと願っています。（母）

成人式を迎えて

希望の園　藤井　祐太

祐太は先日、多くの方々に見守られ成人を迎える事ができました。二十年の間には、大きな手術を三回もしたね。あの入院期間は本当につらかったけど、祐太は弱音も吐かず強く頑張ったね。今は術前と変わらない生活を送れて本当に良かった…。

希望の園に通い、職員の方々の暖かい支えと仲間の皆様と関わりながら毎日充実しているようです。これからも元気に楽しく過ごしていけることが私たち親の願いです。

祐、成人おめでとう。（母）

ありがとうの20年間

とまと　塚本　裕希

誕生後不安しかなかった日、悩んでも涙を流しても前を向くしかないと決意した日でもあります。何かするにも人より時間がかかるけれど精一杯な娘に私は待つことを教わりました。そして、必ず手助けがいる娘、お世話になった人にありがとうが言える娘になってくれました。私は、そんな娘に心から、ありがとうを言いたいです。（母）

20年間に感謝して

とまと　三浦　秀喜

秀喜は、これまで命が危ういと言われたこともあり、無事に成長することだけを願って精一杯支えてきましたが、この度、成人式を迎えることができ、感無量です。この間、親として一人で悩んだ日もありましたが、周りの人に相談することで支えられ、解決に至って、親子共に明るく楽しい毎日を過ごせてきたことに感謝しています。（母）

成人式を迎えて

とまと　山城　拓

私は、成人式を迎える日まで、もうこんな年になっているなんて思いもしませんでした。そこで、これを機に自分を見つめ直すと、仕事を頑張っているけど、ちょっとした事で、弱い心に負けてしまう自分がいる事に気付きました。これからは、もう少し強くなって、みんなに頼られる大人になれるように努力していきたいです。

チャレンジド大賞受賞

あゆみ会　前田　章吾

今回、平成二十七年十二月四日、鹿児島市役所にて、チャレンジド大賞をいただきました。すごく嬉しかったです。ありがとうございます。平成二年に鹿児島大学教育学部附属養護学校を卒業して、岩崎産業株式会社「木材建設部」に入社しました。入社した当時は、材料を加工して、フローリングを作っていました。出来上がったのを小学校や中学校に配達しました。そして、西別府町にある大峰団地に勤務地を移動しました。そこでは、受け払いの仕事をしています。分かりやすく言いますと、建築木材料を売る仕事です。勤めはじめて、今年の三月で二十六年目になります。これからも、ますます仕事を頑張って行こうと思います。これからも、宜しくお願いします。

「チャレンジド大賞」について

様々な分野で、前向きに取り組み輝いている障害者個人や団体等を鹿児島市が表彰するもので、今年が三回目。前田様は、「産業就労部門」で、「障害を克服し、模範的な職業人として業績を上げたもの、若しくはその活動が他の模範となるもの」としての表彰。

全国障害者芸術・文化作品展

最優秀賞受賞

生活協同組合コープかごしま　産直センター　山方　基裕

僕は絵を描くことが大好きです。毎日必ず描いています。いろいろな色を使って描くのが好きです。この桜島も多くの色を使って楽しく描きました。母が全国障害者芸術・文化作品展に応募しました。最優秀賞をもらったと聞いた時は、びっくりしましたがとても嬉しかったです。表彰式にも出席しました。舞台に立って知事から表彰状をもらった時は、とても緊張しました。こんなことはあまりないことなのでとても良い経験になりました。

事務局たより

「仲よし運動会」

昨年八月二十二日（土）、鴨池ドームにおいて開催されました。

主催は本育成会で、四十九回目の開催でした。役員は各地区の特別支援学級の先生方と保護者が中心となって持ち回りで担当していただいております。八月の大会に向け四月初めに前年度の担当地区から引き継ぎ、準備が始まります。代表者選び、業務の担当者決め、打合せ会などの連続です。

当日は三百三十八人の児童・生徒が参加しました。皆さんテキパキと自分の役割を果たしていきます。六年おきに回ってくる担当ですが、引き継ぎや連携がうまくいっているからだろうと思いました。四十九回の歴史は脈々と受け継がれていることを強く感じました。

「わくわく福祉交流フェア（模擬店出店）」

十一月八日（日）、中央公園で開催されました。

事業部が中心となって出店した模擬店にも一般の方々はじめ育成会に縁ある方々が訪れ、互いの近況報告に話の輪がつながっていました。

販売したのは、コーヒー・お菓子の詰め合わせ・ペットボトルのお茶・みかんです。

みかんは、とてもおいしいと評判で早々に売り切れ、また、コーヒーは本格的なドリップコーヒーで香りがよく、遠く離れた店からも大量注文があるなど順調な売れ行きで、その他の品も店員さんの声かけが功を奏し、三時の閉店までには用意した品を完売しました。

また、ふもと・コスモス・とまとも出店しました。これらのお店では、手作りのかわいい小物類やマスコット、「ビーンズみそ」などが販売され好評でした。

平成 28 年 3 月 1 日　育成会たより　てをつなぐ　第 12 号 (4)

希望の園

「地域と共に」

サービス管理責任者　片平 俊史

希望の園は、清和地区の住宅街の道路に面しており、多くの方々に存在を知っていただけているのではないかと思います。

よく「地域に根差す」という言葉を耳にしますが、地域の中に溶け込み、地域に根差した施設は、理想の姿であり目標の一つでもあります。ただ事業を展開しているだけでは、存在の周知はできても、肝心な中身を知っていただけなければ、地域に根差すことには繋がらないように思います。

現在の取組みとして、交流文化祭、地域との交流会、餅つき大会等の行事を通して、隣接する保育園や地域の民生委員の方々との交流や親睦を図っており、少しでも中身を知っていただくよい機会になればと考えています。

まだまだ取り組むべきことは数多くありますが、まずは地域の方が気軽に訪問していただけるような開けた雰囲気づくりや利用者様を地域の一員として温かく見守っていただけるような関係づくりを目指して、これからも地域に発信していけたらと考えています。

育成センターコスモス

「はっぴぃエコ活動」

生活支援員　正木 亮

皆様は、「はっぴぃエコプラザ」という活動をご存じでしょうか。

この活動は、家庭から出される資源ゴミ等をお客様に買い物の際にお持ちいただき、それを福祉施設の利用者様と職員が回収することにより、資源の有効活用と環境保全を進めようとするスーパータイヨーと福祉施設が連携しての環境・社会貢献活動です。そして、回収された資源ごみやリサイクル品は業者に売却され、それによって生じた収益は全て、利用者様に工賃の一部として支給しています。

育成センターコスモスでは、平成26年の10月より、サンキュー新栄店にてエコ活動を行っております。活動時間は、毎週水曜日（祝日を除く）の10時30分から16時です。

お客様に、「ありがとうございます。またよろしくお願いします。」と自然にあいさつされる利用者様を見て、この活動が社会体験や地域の方々との交流を深め、利用者様の自立や共生社会の実現のための取り組みの一つになっていると感じさせられます。

リサイクル品をお持ち頂いた方には、サンキュー新栄店で使用できる割引券をお渡ししておりますので、お買い物の際には、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

各事業所の活動

ふもと

「笑いあるふもと」

事務員　藤井 紀子

「大丈夫・楽しく・ゆっくりと」をモットーに利用者様・御家族の皆様、職員一同手を取り合いながら歩んできた「ふもと事業所」も新体系へ移行して早5年目になりました。

事業所では、昨年度から食品販売業に取り組んでおり、漬け物やビーンズみそなどを作っています。わくわく福祉交流フェアやふもとミニバザーなどで販売し、とても好評です。これらの活動に取り組むようになり、パッケージのラベル貼り・計量等の作業も増え、利用者の皆様も笑顔で仕事されています。このような取組の成果でしょうか、新しく利用希望される方もあり、楽しく作業に取り組んでいます。日本財団より送迎車1台を御寄附いただき、送迎の範囲を広げられるとともに、園外活動も充実できるものと期待しています。利用者や保護者の皆様も職員も笑顔が絶えない事業所を目指し、これからも頑張って参ります。

とまと

「スポーツ吹き矢を楽しんでいます」

とまと・のぞみ学園施設長　福山 憲治

のぞみ学園では、就労継続支援B型事業所として箸入れや天ぷら紙折り作業の傍ら、平成27年9月から月2回土曜日にスポーツ吹き矢を楽しんでいます。当初は、どれくらいできるのか心配しましたが、案ずるより産むが易しの諺どおり、始めてみると参加者全員が自分のペースで取り組んでいます。もちろん、外部の方の御指導の賜ですが、利用者一人一人ができる楽しみを新しく見つけたような気がします。スポーツ吹き矢は、筒に吹き口を取り付ける、的に向かって構える、矢を装填する、息をためねらいを定めて一気に吹くという競技です。標的までの距離は一人一人違っても、見事に的中させる姿は、競技者そのもの、肺機能の向上にも役立ちそうです。

第二コスモス

「ものづくりの喜びを大切に」

生活支援員　山下 リサ

当事業所は、昨年11月にハートピアで実施された「あったか交流フェア」に初めて本格的に出店しました。参加を決めてから急ピッチで製品づくりが始まったのですが、利用者の皆さんのやる気と集中力は、いつもの作業とは段違いでした。「ものづくり」は、事業所としても大切にしてきたつもりでした。

しかし、自分たちが作った製品を販売し、収益を得られるということは、通常の作業とは異なり当事者意識を高める大きな動機付けとなったように感じました。一方、当日は売れると見込んだ製品よりも別な製品が売れるなど、お客様の厳しい目にも触れることができました。今回の出店で入所施設で暮らす利用者の皆様にとっての生き甲斐も「働き、収入を得ること」であることを再認識させられました。

来年度は更に高い作業工賃を得られるような製品開発に挑戦したいと思っています。

事業紹介

鴨池すくすく学級活動

副学級長　内和田　育子

鴨池すくすく学級は、未就学から高校生までの障害児と家族の為の鴨池公民館講座です。

昭和四十九年に始まった前身の「養護母子学級」は県内初の就学前の療育の場として、障害のある子どもをもつ親子のための学習会で、育成会活動の原点とも言えます。

当時から障害児を抱える家族への活動を支えてくださる鴨池公民館のご理解に心より感謝申しあげます。

現在は、五十家族の定員いっぱいで活動しているため来年度まで待っていただいている家族もいる状況です。

活動に楽しく参加する子どもたち、勉強会やリフレッシュ活動で一息つき笑顔で帰られる家族の皆さんを見ると、実行委員としての大変さは忘れてしまいます。

本学級は十三名の実行委員、十名の指導者そして十一のボランティア団体と個人ボランティアで運営しています。

実行委員のほとんどは、育成会の施設または放課後等デイサービス利用者の保護者で、先輩・後輩がおしゃべりしながらの時間は、相談の場になったり、後輩の頑張りを応援する場になり育成会ならではの温かい雰囲気を感じます。学齢期の保護者が運営に関わり支えてくれる事は、これからの育成会には必要不可欠ですので、大切な活動と思っております。

だんだん、参加者が増え毎月のボランティアの人数確保が厳しく困っていた時、育成会の各施設長の方よりありがたい申し出があり、現在は五施設、二放課後等デイサービスから職員の方がボランティアとして参加してくださり支援をいただいています。

「鴨池すくすく学級」がもっと充実した学級になるように、育成会全体の連携の下に運営されるよう頑張っていきたいです。

みゅーじっくせらぴー

家族教室「進路・卒業後の現状」

学びと連携

わくわくコスモス

児童発達支援管理責任者　濱田　絵美

すくすく学級で活動している子どもたちは、生き生きとしていて楽しそうです。指導員や学生ボランティア、異年齢の人たちとの関わりの中で、いろいろな刺激や影響を受けて、さらなる成長に繋がっていくのだろうなぁと感じます。

私たち職員も参加させていただいていますが、日頃の療育や支援の勉強になることがたくさんあります。例えば、役員のお母様が、ボランティアの学生に子どもたちとの関わりを伝えるとき。まずは安全に配慮すること、無理はしないこと、笑顔で一緒に楽しむことなど、活動に応じて考えられる具体例を示して伝えてくださるので、私たちも初心に戻って心構えができます。また、講師や指導員の方々が準備された活動内容や工夫された教材は、現場で活用させていただくことも多々あります。

すくすく学級への参加がきっかけで、放課後等デイサービスの利用に繋がった方もいらっしゃいます。未就学児から学齢期の子どもたちが、楽しく「わくわく」する活動を通して「きぼう」ある未来へ「すくすく」と成長していける場を提供できるように、今後もすくすく学級と児童発達支援事業、放課後等デイサービスが連携をとり、縦横のつながりを大事にしていきたいと思います。

きぼう学舎とすくすく学級

きぼう学舎

児童発達支援管理責任者　上村　伸雄

きぼう学舎で放課後等デイサービスが始まり三年目を迎えています。当初は利用者がいない日もありましたが、すくすく学級からの紹介等で御契約いただく方が増え、今では定員の十名前後の方々に御利用いただいています。

きぼう学舎では、全員が一斉に行う活動を中心にタイムテーブルに従い毎日を「明るく、仲よく、元気よく」をモットーに取り組んでいます。すくすく学級へは、毎回職員が参加させていただいています。その中に当事業所を御利用いただいている方々もおられ、お互いに楽しく活動しています。これからも積極的に協力するとともに、今後当事業所を御利用したい方がおられましたら、その場所や事業内容等も御紹介させていただきたいところです。

今後とも、すくすく学級との連携を密にし、活動がお互いに充実し、成長していけるよう努めていきましょう。

一日レクリエーション

事務局長　中釜　広栄

二十七年度は十月十一日日曜日、川辺の園田農園でのみかん狩りがメインでした。

参加者は本人九十四人、保護者等百四十四人の合計二百三十八人で、市役所やふれあい館、谷山支所から大型・中型バス七台に分乗し、九時に出発、まずは川辺道の駅でトイレ休憩、その後目的地の農園を目指しました。

さて、いよいよみかん狩りです。まずハサミと袋をもらいました。それを持って熟れた実がなっているという木の場所まで移動です。そこはこの農園の一番上の段にあるとのこと。かなり急な坂道でした。天気が良かったこともあり、着いたときには汗が出ていました。

まずは色づいて美味しそうな実がなっている木から一つを取り試食をしてみました。フムフムと味を確かめながら次の木の実と食べ比べです。三本ぐらい試しました。周りを見るとみなさん同じ考えらしく食べながら歩き回っていました。楽しそうにおしゃべりしながら食べたみかんの品評をしながら袋にいっぱい詰め込んでいました。

上の段まで行けなかった人は、バスの近くでご家族や支援員の皆さんと一緒にみかん狩りを楽しんでいました。皆さん十分に楽しまれた様子でした。

みかん農園を後にして南薩養護学校に向かいました。貸していただいた体育館で昼食をとるためです。学校に着くと校長先生、教頭先生らが正門で迎えてくれました。

案内された体育館でお弁当を開きます。みかん狩りは知らない間におなかの中を空っぽにしていたらしく、いつもの昼食より何倍もおいしかったです。

その後、今回の担当であった育成センターコスモスの方々を中心に会場が一体となってゲームとダンスが行われました。妖怪ダンスがとても上手にできましたよ。

楽しい時間はアッという間に過ぎ、南薩養護学校を離れる時間が来ました。お世話になった校長先生方に見送られて学校を後にしました。心から感謝を申し上げます。

天気に恵まれ、事故なく終了できたことは最大の喜びです。誰もが参加でき、皆さんが楽しみにしている一日レクリエーションですが、準備の段階から運営のすべてにわたって育成会が一体となって取り組まなければ実施できない大きなイベントです。参加されるすべての方々に楽しい一日を過ごしていただくために今後も一層のご協力をお願いいたします。

みかん狩りの様子

一日レクリエーションに参加して

どのみかんが美味しいかな？

二見　華子

十月の爽やかな秋晴れの下、家族四人でふれあいレクリエーションに参加しました。初めての行事参加で親子共にドキドキしていましたが、バスガイドさんの軽妙なお喋りを楽しんでいるとあっという間にみかん狩り農園に到着。

「どのみかんが美味しそうかな？」と、目を輝かせながら味見をする子どもたちの姿が微笑ましく、たっぷりとお土産を収穫して農園を後にしました。南薩養護学校では皆でお弁当を食べ、じゃんけん列車や妖怪ウォッチ体操のレクリエーションで他の参加者の方との交流もでき、とても楽しく充実した一日となりました。運営スタッフの皆様、この度は本当にありがとうございました。

レクリエーションの様子

我が家の秋の定番

Aさん

昨年秋、一日ふれあいレクリエーションに参加させていただきました。このイベントは、家族での参加が可能なので、我が家の「秋の行楽」の一つとして定番となりつつあります。

今回は、南薩方面でのみかん狩りをメインとした内容でしたので、子どもにも参加しやすく、「こっちのみかんがおいしいよ。」「この小さい赤ちゃんみかんがいい。」など言いつつ、袋いっぱいの収穫を楽しんでいました。

大人数でのイベントであり、企画も大変だと思いますが、大人も子供も楽しめる内容を期待しています。

最後に、子どもたちに素敵な思い出をありがとうございました。

大きな糧

希望の園
生活支援員　松坂　彩美

「見て。上手だった?」とクラブ活動が終わると必ず聞くAさん。普段は人前に立つと声が出にくくても、クラブ活動の時間は大きな声でうたうBさん。歌が苦手でも、踊りの際に体で表現するCさん。私たちは隔週でクラブ活動の時間に合唱や踊りの練習に取り組んでいます。

これまで私たちは、講師をお迎えして合唱や踊りの練習に取り組んできました。その成果を発表する場として、県の「施設文化祭」や「ふれあい館コンサート」に出場してきました。また、園内に保育園や地域の方々をお迎えして「交流文化祭」を開催し、発表をしてきました。

練習の成果を発揮する場があることはとても有り難く、ステージに立つ一人一人がとても輝いています。その人がその人らしく、生き生きとされる様子は見ていて心温まるものがありました。そんな中、今年は「全国障害者芸術文化祭」が鹿児島で開催されることを知りました。私たちはこの大きな機会に、すぐに手を挙げました。またとないチャンスをつかむことができ、そのことを利用者様に説明すると、目を輝かせたり、わくわくした気持ちを体で表現したりされました。それから私たちは、クラブで繰り返し練習したり、その様子を動画に撮影したりして、本番への期待や意欲を高めていきました。

いざ本番当日。凛とした表情で本番への期待をされる方、少し緊張した表情の方、とてもリラックスされている方と、それぞれでした。そんな利用者様の反面、職員の方が不安や緊張が強かったことを覚えています。

しかし、さすがこれまでたくさんのステージを経験された方々です。少しの不安もなく、キラキラとした表情で堂々とステージに立たれ、これまでの練習の中で一番すてきな発表となりました。

今回の経験は、利用者様はもちろん、職員にとっても大きな糧となりました。このような機会に巡り会えたことと、御協力くださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

全国障がい者芸術文化祭

全国障がい者芸術文化作品展 最優秀賞受賞作品
山方 基裕

鹿児島市手をつなぐ育成会　平成二十八年度　上半期行事予定表

月	期日	行事
4	1日（金）	・辞令交付式
	17日（日）	・あゆみ会　開級式
5	21日（土）	・すくすく学級　開講式
6	12日（日）	・総会　ふれあい館
8	20日（土）	・第50回仲よし運動会 鴨池ドーム
9	4日（日）	・街頭広報
	18日（日）	・ふれあいスポーツ大会 鹿児島国際大学フィールドハウス

編集後記

今号は、各事業所の風景というテーマのもと、各事業所での活動風景を紹介させていただきました。新たに取り組んでいる活動や、活動内容が発展したものなど、それぞれの事業所の特色が出た内容になっているのではないでしょうか。

また、事務局便りという内容で、育成会の活動紹介や、成人を迎えられた方、被表彰者の御写真、喜びの声などを掲載させていただきました。

これからも皆様に分かりやすく、様々な情報をお伝えしていきたいと思っております。

今回、御多用の中、玉稿をお寄せくださった方々に感謝申し上げます。

この広報紙（手をつなぐ）は、赤い羽根共同募金の助成を受けて発刊しております。